

SFC 研究所所長 殿

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書（2020年度）

ラボ名称	xSDG・ラボ				
ラボ代表者	氏名	蟹江 憲史	所属	政策・メディア研究科	
ラボ設置期間	2017年10月1日 ~ 2023年9月30日			6	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
蟹江 憲史	政策・メディア研究科 教授	代表・統括
植原 啓介	環境情報学部 准教授	ICTとSDGs
加藤 文俊	環境情報学部 教授、政策・メディア研究科委員長	地域活性とSDGs
カトラミーズ・ターレク	政策・メディア研究科特任講師	企業とSDGs
国谷 裕子	政策・メディア研究科 特任教授	SDGsの実施、ラボの研究成果発信、情報発信
佐久間 信哉	政策・メディア研究科 特任教授	地方自治体とSDGs
高木 超	政策・メディア研究科 特任助教	地方自治体とSDGs
田中 浩也	環境情報学部 教授	デジタルファブ리케이션とSDGs
玉村 雅敏	総合政策学部 教授、SFC研究所所長	地域活性とSDGs
村井 純	慶應義塾大学 教授	IoTとSDGs
吉崎 仁志	環境情報学部 准教授	指標とSDGs

年次活動実績報告

研究活動報告（設置申請書，継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）

別添資料参照

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

別添資料参照

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書（2020 年度）

ラボ名称：xSDG・ラボ

ラボ代表者：

氏名；蟹江 憲史 所属・職名；政策・メディア研究科 教授

設置期間；2017 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日 6 年間

年次活動実績報告

研究活動報告（設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）

xSDG・ラボでは、多様で複雑な社会における問題解決をSDGsという切り口で実現するためのトランスディシプリナリーな研究を実施し、出版物やウェブサイト等をつうじて、積極的な成果発信することを目的とする。本活動の推進にあたっては、学生および研究コミュニティと連携しながら、共同研究課題による外部資金獲得・導入により、産官学連携による推進体制とする。

2020年度の活動実績は次のとおりである。

● 「企業×SDG」として、企業との共同研究の実施

国際航業株式会社・ESRI ジャパン株式会社：

日本版 SDGs の指標検討及び GIS を活用した指標の可視化

SDGs による自治体評価の新たな指標、自治体の政策進捗の見える化を目的としている。統計データ、地図データの整理検討、指標検討、表現方法の検討に取り組んだ。

楽天株式会社：「サステナブルな買い物」の実現に向けた商品選定基準の検討と実装

楽天 Earth Mall において、持続可能な消費と生産（SCP）等の SDGs の達成に貢献する商品選定基準の基準を検討・策定し、実装することを目的としている。商品基準策定に係る自社等の情報提供、商品選定基準を実装するプラットフォームの提供、消費者への調査等の実施を受け、商品選定基準に係る研究枠組みの検討、専門的知見の提供を行った。

東京ガス株式会社：

スマートエネルギーネットワークの構築による SDGs への貢献についての研究

スマートエネルギーネットワークの構築がどのように SDGs に貢献できるのかを整理しながら、関連するレジリエンスの具体化について SDGs の観点から考察することを目的としている。スマートエネルギーネットワークの構築と関連するレジリエンスの具体化について検討し、SDGs の観点からの整理と考察を行なった。

● 「自治体×SDG」として、自治体との共同研究の実施

神奈川県：SDGs 達成の進捗管理に関する手法・検討調査

SDGs の 2030 年の目標達成に向け、SDGs の神奈川県の取組みの進捗状況を測定するための指標を作成し、進捗管理の見える化を目的とする。VLR の手法として、SDGs 達成に向けた取組をフォローアップしながら推進する。神奈川県 SDGs ローカル指標に必要な事項、および神奈川県の SDGs の達成のための進捗管理に必要な事項の検討と抽出を受け、SDGs 達成に向けた観点からの整理と考察を行なった。

● 寄附講座の実施

シティグループ証券株式会社：SDGs と金融

2020 年秋学期に、学部科目として実施した。

● 委託事業の実施

内閣府地方創生推進事務局（株式会社博報堂経由）：

「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」会員データベースのウェブアプリケーション

内閣府地方創生推進事務局が主催する「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」

会員データベースについて、ウェブアプリケーション）の運営を行なった。具体的には、ウェブサイトのセキュリティ規定への対応、会員情報の更新（当該年度あたり 4 回（9 月、11 月、1 月、3 月））に対応した。

● 企業および自治体を対象とした情報発信・マッチングのプラットフォームとして、 「xSDG コンソーシアム」の運営

※ 詳細は、xSDG コンソーシアム 2020 年度年次活動実績報告書を参照

● シンポジウム実施、ORF や外部イベントへの参加

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ、 xSDG コンソーシアムシンポジウム「コロナとSDGs の今後」

日時：2020 年 6 月 26 日（金）14：30-18：30

会場：ライブ中継（下記 URL より、アーカイブビデオ公開）

URL：<http://xsdg.jp/sympo20200626.html>

事前登録：426 名、当日視聴：246 名

プログラム：

総合司会：佐久間 信哉（慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授）

主催者挨拶	
14：30-14：40	蟹江 憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、 SFC 研究所 xSDG・ラボ代表
2019 年度活動報告：分科会成果報告	
14：40-15：10	金融アセスメントプラットフォーム分科会セッション
15：10-15：40	プラスチック問題分科会セッション

（休憩 15：40-16：00）

パネルディスカッション	
16：00-18：00	モデレータ： 国谷 裕子 慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授 パネリスト： 渋澤 健 コモンズ投信株式会社 取締役会長 兼 ESG 最高責任者 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役 村井 純 慶應義塾大学教授 蟹江 憲史

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ、 xSDG コンソーシアムシンポジウム「コロナ禍の先 SDGs」

日時：2021 年 3 月 3 日（水）15：00-17：00

会場：ライブ中継（下記 URL より、アーカイブビデオ公開（予定））

URL：<http://xsdg.jp/sympo20210303.html>

事前登録：448 名、当日視聴：312 名

登壇者：

モデレータ：

蟹江 憲史

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、SFC 研究所 xSDG・ラボ代表

パネリスト：

大林 ミカ

公益財団法人自然エネルギー財団事業局長

山本 太郎

長崎大学熱帯医学研究所教授

国谷 裕子

慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授

村井 純

慶應義塾大学教授

総合司会：

佐久間 信哉

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授

ジャパン SDGs アクション推進協議会（会長：蟹江憲史、事務局：神奈川県政策局 SDGs 推進課内）主催「ジャパン SDGs アクションフェスティバル」

ジャパン SDGs アクション推進協議会（会長：蟹江憲史、事務局：神奈川県政策局 SDGs 推進課内）主催する「ジャパン SDGs アクションフェスティバル」に参加。xSDG・ラボメンバー及び関係者が出演。

日時：2021 年 3 月 26 日（金）、27 日（土）10:00～17:00

開催方法：オンラインでのライブ配信（2 つのチャンネルで配信、事前登録不要）

URL：<https://www.japan-sdgs-action-festival.jp/>

株式会社 DeNA 川崎ブレイブサンダース主催「&ONE days」

xSDG コンソーシアム VSP（会員）の株式会社 DeNA 川崎ブレイブサンダース主催する「3/27,28 滋賀戦 SDGs の 17 すべての目標にチャレンジする『&ONE days』」に協力。「&ONE×慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ」として、蟹江研究室が企画参加。

日時：2021 年 3 月 27 日（土）、28 日（日）

URL：<https://kawasaki-bravethunders.com/news/detail/id=17578>

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

● 2020 年度年次報告書（2021 年 6 月予定、xSDG コンソーシアムと連動）

（目次予定）

代表総括

コンソーシアム・ミーティング開催記録（第 1-3 回）

シンポジウム開催記録

分科会活動報告

金融アセスメントプラットフォーム分科会

新型コロナウイルスと SDGs 分科会

未来財務情報 xSDG 分科会

分科会成果

「企業のための SDG 行動リスト ver.1」

「企業のための SDG 行動リスト ver.1」の英語版

「コロナの経験を踏まえた SDGs 達成へのカギとなる 12 の方策」

ニュースレター（第 21-32 号）

共同研究報告

国際航業株式会社・ESRI ジャパン株式会社：

日本版 SDGs の指標検討及び GIS を活用した指標の可視化

楽天株式会社：「サステナブルな買い物」の実現に向けた商品選定基準の検討と実装

東京ガス株式会社：

スマートエネルギーネットワークの構築による SDGs への貢献についての研究

神奈川県：SDGs 達成の進捗管理に関する手法・検討調査

寄附講座報告

シティグループ証券株式会社：「SDGs と金融」

会員原稿（VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）対象）

● 報告書

豊岡市・慶應義塾大学共同研究（持続可能な地域づくりに向けた分析と実践）（令和 2 年 6 月 19 日）

https://www.city.toyooka.lg.jp/shisei/1004604/1011186.html?utm_source=BenchmarkEmail&utm_campaign=2020%e7%ac%ac23%e5%8f%b7_6%e6%9c%88&utm_medium=email

● メディア等掲載

「産学共同で SDGs に取り組む、慶応義塾大学が注目したのは地域の“いいところ探し”」、
ニュースイッチ（日刊工業新聞）、2020 年 9 月 26 日

<https://newswitch.jp/p/23948>

「日本を変える 17Goals (71) 慶応義塾大学」、2020 年 9 月 25 日、日刊工業新聞 5 面

<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00572305>

「『学』主導で産官と連携、事業後押し ―慶大 xSDG・ラボ―」、2020 年 8 月 22 日、
日本経済新聞朝刊 29 面特集

以上